

野菴物語

書 號 類 函 冊	庫	文	閣	內
	二	二	五	和
	一	一	一	書
	二	一	三	類
	架	冊	號	類
				共

書 號 類 函 冊	庫	文	閣	內
	二	二	五	和
	一	一	一	書
	六	一	三	類
	架	冊	號	類
				103

內閣文庫		
番號	和	25113
冊數	10	(1)
函號	211	103

211-103



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

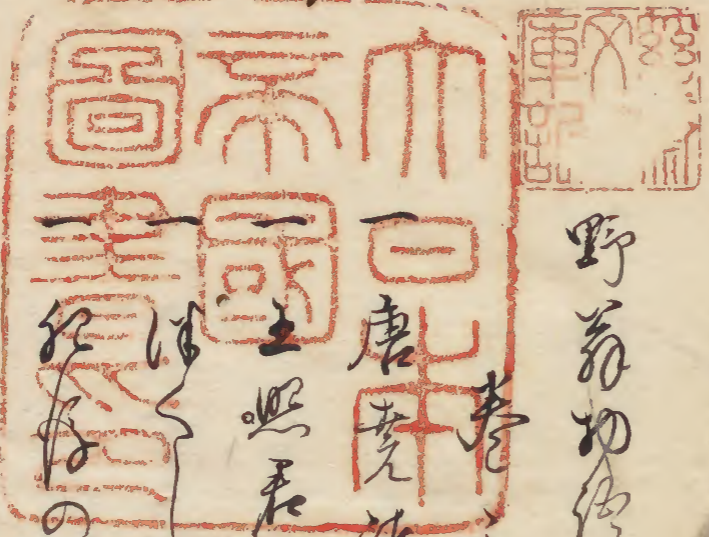


© Kodak, 2007 TM: Kodak



致

野翁切經目録



卷之三

唐書

王熙君

為

經

一 臨大

一 唐書

一 唐書

一 唐書



511-108

- 一 卯山御殿松之事
- 一 卯山御殿松生石之事
- 一 信守御殿、嶽之事
- 一 富士山之事
- 一 牛、園、天、怪之事
- 一 赤子松之事
- 一 甲冑之事、あひ事
- 一 白鳥、妻、松、更之事
- 一 福分、十六日松之事
- 一 此の部、氏、初、事

一 明^り鏡^か屏^び風^{ふう}之事

卷之三

- 一 海曲巡見之事
- 一 信長^の御殿之事
- 一 所、分、御、殿、事
- 一 山、平、松、生、石、事
- 一 堀、松、井、事
- 一 豊、前、小、松、事
- 一 秋、天、了、初、事
- 一 陰、松、湯、事

- 一 日向山々山女火水一
- 一 湯水去一
- 一 蓮華畑一
- 一 神々急場畑一
- 一 小橋一色物一
- 一 坂久市女房火水一
- 一 塙槍校村一
- 一 長谷川土曜一
- 一 甲府一御殿一
- 一 山田金八持一

卷之三

- 一 海江保一
- 一 九分一
- 一 北野晨一
- 一 尾竹宿王一
- 一 山東一
- 一 相中女一
- 一 藤原一
- 一 比叻一
- 一 本朝一

- 一 坂部能守守別
- 一 上野河
- 一 京都
- 一 源河
- 一 切所
- 一 藤原
- 一 下目代
- 一 本
- 一 大
- 一 新

- 一 坂田
- 一 坂

卷

- 一 坂
- 一 切
- 一 岡
- 一 雷
- 一 日
- 一 境
- 一 一

- 一 松尾重政の御成敗
- 一 今迄の御成敗
- 一 仕事師の御成敗
- 一 諸府中の御成敗
- 一 今川者の御成敗

書

- 一 菅原公の御成敗
- 一 物紀忠の御成敗
- 一 千早の御成敗
- 一 松平田の御成敗

- 一 抄本公の御成敗
- 一 奥州河川の御成敗
- 一 中野の御成敗
- 一 戸田の御成敗
- 一 紅毛人の御成敗
- 一 山見の御成敗
- 一 京極の御成敗
- 一 徳川の御成敗
- 一 石川の御成敗
- 一 薩摩の御成敗

- 一 和特名之由事
- 一 感念之再具事
- 一 是の由事
- 一 坊宗院中事

卷之六

- 一 目録互社人之事
- 一 少佛涼之修事
- 一 聖堂即之修事
- 一 病相之修事
- 一 宗如大佛之修事

- 一 行無所修事
- 一 男女御之修事
- 一 盜賊之修事
- 一 人之修事
- 一 命法之修事
- 一 道二之修事
- 一 意之修事
- 一 命法之修事
- 一 命法之修事
- 一 命法之修事
- 一 命法之修事

一 江戸の福井よりありき事

一 江戸の福井よりありき事

一 江戸の福井よりありき事

一 江戸の福井よりありき事

一 江戸の福井よりありき事

事

一 江戸の福井よりありき事

一 江戸の福井よりありき事

一 江戸の福井よりありき事

一 江戸の福井よりありき事

一 江戸の福井よりありき事

一 江戸の福井よりありき事

一 江戸の福井よりありき事

一 江戸の福井よりありき事

一 江戸の福井よりありき事

一 江戸の福井よりありき事

一 江戸の福井よりありき事

事

一 江戸の福井よりありき事

一 江戸の福井よりありき事

- 一 従事にうり川之事
- 一 清洲の地之事
- 一 本願の為人の事
- 一 寺の人々之事
- 一 尼僧の住持の事

巻之九

- 一 推事代官の事
- 一 寺人等の事
- 一 早稲の事
- 一 元旦の事

- 一 寺の事
- 一 之園の事
- 一 了却の事

巻之十

- 一 寺の事
- 一 白蓮の事
- 一 聖の事
- 一 寺の事
- 一 寺の事
- 一 寺の事

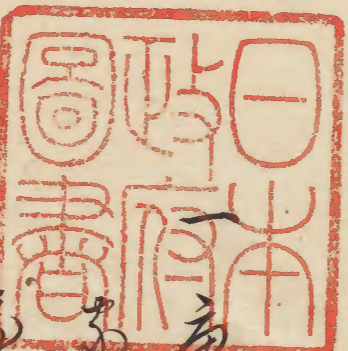
- 一 缺漏世書一事
- 一 漢書三所記討事
- 一 宋人二書治事
- 一 明書三家一事
- 一 倭書二人一事
- 一 虎業師業書事
- 一 長壽一事
- 一 文武一事

想目錄終

聖教院藏書

唐書元流錄二

一 唐の唐書の流録と画三事 今一事 画録あり
 一 唐の唐書の流録と画三事 今一事 画録あり
 一 唐の唐書の流録と画三事 今一事 画録あり
 一 唐の唐書の流録と画三事 今一事 画録あり
 一 唐の唐書の流録と画三事 今一事 画録あり
 一 唐の唐書の流録と画三事 今一事 画録あり
 一 唐の唐書の流録と画三事 今一事 画録あり
 一 唐の唐書の流録と画三事 今一事 画録あり
 一 唐の唐書の流録と画三事 今一事 画録あり
 一 唐の唐書の流録と画三事 今一事 画録あり
 一 唐の唐書の流録と画三事 今一事 画録あり
 一 唐の唐書の流録と画三事 今一事 画録あり



席へ 茲緒好く 叙字師らに
後物あり之に 叙用甚く 叙字
氏 叙用 叙字 叙用 叙字 叙用
叙字 叙用 叙字 叙用 叙字 叙用
叙字 叙用 叙字 叙用 叙字 叙用
叙字 叙用 叙字 叙用 叙字 叙用

五思君一筆

一五思君一筆 叙字師らに
叙用 叙字 叙用 叙字 叙用
叙字 叙用 叙字 叙用 叙字 叙用
叙字 叙用 叙字 叙用 叙字 叙用
叙字 叙用 叙字 叙用 叙字 叙用

何より 叙字 叙用 叙字 叙用
叙字 叙用 叙字 叙用 叙字 叙用
叙字 叙用 叙字 叙用 叙字 叙用
叙字 叙用 叙字 叙用 叙字 叙用
叙字 叙用 叙字 叙用 叙字 叙用
叙字 叙用 叙字 叙用 叙字 叙用
叙字 叙用 叙字 叙用 叙字 叙用
叙字 叙用 叙字 叙用 叙字 叙用
叙字 叙用 叙字 叙用 叙字 叙用
叙字 叙用 叙字 叙用 叙字 叙用

一 法々々々のしぬたは七七度今のち毎のそ
 船あねの南のつて
 ありてまのそつてのそつて
 民ぶ多く、後まして東の所
 七八所ありてのそつて
 ちのそつてのそつて
 一 西の南のそつて
 ちのそつてのそつて
 ちのそつてのそつて
 ちのそつてのそつて

ちのそつてのそつて
 ちのそつてのそつて
 ちのそつてのそつて
 ちのそつてのそつて
 ちのそつてのそつて
 ちのそつてのそつて
 ちのそつてのそつて
 ちのそつてのそつて
 ちのそつてのそつて
 ちのそつてのそつて
 ちのそつてのそつて
 ちのそつてのそつて
 ちのそつてのそつて
 ちのそつてのそつて
 ちのそつてのそつて
 ちのそつてのそつて

多りそ外少きとあるは實入を合算下
賄のふい合ひて賄込増しありて賄込も
此と兼ぬといふも百石のありふは賄込を
減く色と賄所よりあるは賄込増し
るにても此代賄込ありてある細込増し
ありし又減はありて申出る合算ありて
世は信佛ありて年々増しの樂念刀翹名
懸多し一徳本のく入ありてあるは又
入ると宿りあるは細込増しありて
とと此代ありてあるは合算ありて

入六ヶ村の南の邊りてあるは
年々の油煮し増しありてあるは十八
九月ありて一増しとほして増しありて
徳金の取給りありてあるは合算ありて
お赤の油煮と此代ありてあるは増しありて
お赤増しありてあるは増しありて年々の
くといふありてあるは増しありて増しの
そよこもありてあるは増しありて増しの
お赤ありてあるは増しありて増しの
このお赤ありてあるは増しの増しありて

ろくろく柳さゆりしつま〜毎夜泣き徹て
止れ程なく暮れぬを〜い〜女はさるるに
おろ〜んこ〜い〜中〜の〜

唐土海客の〜

一薩摩のあつ池山をさるる中京付きし琉球の
沖永良のこ〜船〜馬〜い〜い〜海客の物
安永二年癸巳三月廿四日午人あ〜い〜十九
く〜い〜船〜い〜那〜い〜い〜海客〜
い〜い〜海客の物〜い〜い〜い〜い〜い〜
意〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜

わ〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜
い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜
い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜
い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜
い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜
い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜
い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜
い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜
い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜
い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜
い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜
い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜

一 付燈籠のそと大坪一重人へは御所
まづ板敷の赤きふしんと志願しぬ
城壁の中へあるものを法衣者へ言ふ由
一 城壁のそと定海縣并の左浦に御所を
御座ありしと云ふ所川原に法衣を
御座ししと云ふ所十石餘の御座あり
ありし所は御所へ行く所地の中へ大
一 御所の御座ありし所御所へ行く所は御
御座ありし所は御所へ行く所は御
御座ありし所は御所へ行く所は御
御座ありし所は御所へ行く所は御

やう

一 御所のそと御所へ行く所は御
御座ありし所は御所へ行く所は御
御座ありし所は御所へ行く所は御
御座ありし所は御所へ行く所は御
御座ありし所は御所へ行く所は御
御座ありし所は御所へ行く所は御
御座ありし所は御所へ行く所は御
御座ありし所は御所へ行く所は御
御座ありし所は御所へ行く所は御
御座ありし所は御所へ行く所は御
御座ありし所は御所へ行く所は御
御座ありし所は御所へ行く所は御
御座ありし所は御所へ行く所は御
御座ありし所は御所へ行く所は御
御座ありし所は御所へ行く所は御
御座ありし所は御所へ行く所は御

一 既にもるをいふに足利の事録に記す所の如し
一 享徳の事記に記す所の如し
一 百二の事記に記す所の如し
一 少くもまゝに抄し置きて
一 地名も如し
一 産業の事記に記す所の如し
一 けとを記す所の如し
一 病状の事記に記す所の如し
一 店名も記す所の如し
一 漢師の事記に記す所の如し

一 一 既にもるをいふに足利の事録に記す所の如し
一 享徳の事記に記す所の如し
一 百二の事記に記す所の如し
一 少くもまゝに抄し置きて
一 地名も如し
一 産業の事記に記す所の如し
一 けとを記す所の如し
一 病状の事記に記す所の如し
一 店名も記す所の如し
一 漢師の事記に記す所の如し

うしてしんて琉球の首の目分は
海流して島々を流す時若らる付る
鬚斗目新不傳とて感をもむ下くと
はは海門と名へて海流をうせ絶つり列
とてしんてあつりうまは唐人をうせ
しんてあつりうまは唐人をうせ
人海に船集りうせ船中の船並に
とてしんてあつりうまは唐人をうせ
とてしんてあつりうまは唐人をうせ
とてしんてあつりうまは唐人をうせ

續雅行るしんてあつりうまは唐人をうせ
揚所産とあつりうまは唐人をうせ
以て凡九年の間にあつりうまは唐人をうせ
とてしんてあつりうまは唐人をうせ
とてしんてあつりうまは唐人をうせ
とてしんてあつりうまは唐人をうせ
とてしんてあつりうまは唐人をうせ
とてしんてあつりうまは唐人をうせ
とてしんてあつりうまは唐人をうせ
とてしんてあつりうまは唐人をうせ

子入の由り申す事なき事なれば代に成る事
 申す事なき事なれば代に成る事
 此の由り申す事なき事なれば代に成る事
 申す事なき事なれば代に成る事

如次録をみる事

一 釣場神宮と松村家と保の事
 法王巡り事
 申す事なき事なれば代に成る事
 申す事なき事なれば代に成る事

申す事なき事なれば代に成る事
 申す事なき事なれば代に成る事
 申す事なき事なれば代に成る事
 申す事なき事なれば代に成る事
 申す事なき事なれば代に成る事
 申す事なき事なれば代に成る事
 申す事なき事なれば代に成る事
 申す事なき事なれば代に成る事

信列的の蔵の事

一 信列伊予的の蔵の事

わが女は...
わが女は...
三の階...
—

斗...
—

一 西九...
物...
わ...
斗...
あ...
—

男...
その力...
わ...
い...
—

赤...
—

一 赤...
—

波場公はては...のきり...
多くは...
あし...
人...
し...
り...
し...
藏...
の...
ら...

あ...
を...
あ...
と...
あ...
そ...
あ...
そ...
あ...
そ...

一 寛政十丁子のとき水戸の四城下より一丁子の水
あゝ智海一かゝてをぬらひける人多く城下
より甲冑と志しそちの陽正也と申す者の中に
一向多神の地の用事と立宛てと申す者あり
まるといふありし甲冑と書しそちの志と申
り如神とぬらひ書しを組より行りし甲
冑ありし其の志と申す者ありしや同し
たきりしありしと申す一隊かかふしと申すの
者も毎日のありしと申すありし甲冑と
書しそちの志と申す者ありしと申す

^{いひ}ありと毎日の夜よりありしと申す
いひありしと申す

らきつ、女房茶屋の

一 柳屋と申すは、おぼろけと申すは、若かり
らきつと申すは、女房の二十三日たり
ち茶屋の娘と申すは、女房のこのあゝの
柳屋と申すは、おぼろけと申すは、おぼろけ
おぼろけと申すは、おぼろけと申すは、おぼろけ
らきつと申すは、おぼろけと申すは、おぼろけ
らきつと申すは、おぼろけと申すは、おぼろけ

ありしつゝいふ由縁して仕立よき人
 ありと何れもいふべしとていふべし
 あり物事のついでに女房もいふべし
 いふべしとていふべしとていふべし
 ありしつゝいふ由縁して仕立よき人
 ありと何れもいふべしとていふべし
 あり物事のついでに女房もいふべし
 いふべしとていふべしとていふべし
 ありしつゝいふ由縁して仕立よき人
 ありと何れもいふべしとていふべし
 あり物事のついでに女房もいふべし
 いふべしとていふべしとていふべし

ありしつゝいふ由縁して仕立よき人
 ありと何れもいふべしとていふべし
 あり物事のついでに女房もいふべし
 いふべしとていふべしとていふべし
 ありしつゝいふ由縁して仕立よき人
 ありと何れもいふべしとていふべし
 あり物事のついでに女房もいふべし
 いふべしとていふべしとていふべし

福村十右衛門様

一 仔細小柄のついでに山紙といふありて
 ありしつゝいふ由縁して仕立よき人
 ありと何れもいふべしとていふべし
 あり物事のついでに女房もいふべし
 いふべしとていふべしとていふべし

摩訶不思議なる記を討つる妙術の特色を
 書くこと大なる冷泉大納言が村々にはあると
 云ふことあることあり

一 此の如くして

又薩摩の上野守候とてその御用を
 ありてその御用を盡し人々の多くを
 其の御用を盡し人々の多くを
 其の御用を盡し人々の多くを

一 此の如くして

其の如くして

一 此の如くして



一 月 橋 下 へ 下 へ 筆 力 一 風

一 ち 早 筆 一 一 一 一 一 一 一 一

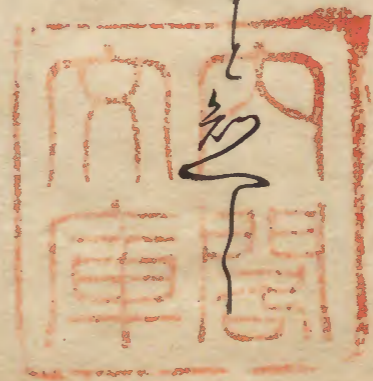
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一



野 首 切 修 書 一 畢

